

2020 年度中央大学共同プロジェクト 研究実績報告書

1. 概要

研究代表者	所属機関	法学部		2020 年度助成額 (千円)
	氏名	一政 史織		
	NAME	Shiori Ichimasa		
研究 課題名	和 文	19 世紀から 20 世紀北米における移民をめぐる規制と移 民コミュニティの変容		研究 期間
	英 文	Regulations on and supporting systems for immigrants: transformation of immigrant communities in North America since the late 19th century		
2017 年度 ～ ※2020 年度 (特例措置によ り 1 年間延長)				

2. 研究組織

※所属機関・部局・職名は 2021 年 3 月 31 日時点のものです。

	研究代表者及び研究分担者		役割分担	備考
	氏名	所属機関/部局/職		
1	一政 史織	中央大学・法学部・教授	研究統括、理論（社会学、文化研究）、移民をめぐる米国の世論や社会運動、移民たちのトランスナショナルなメディア活動や社会運動	研究代表者
2	小田 悠生	中央大学・商学部・准教授	米国の移民政策、政府関係資料、NGO 組織の資料の収集、分析、人権概念の変容の検証	研究分担者
3	和泉 真澄	同志社大学・グローバル地域学部・教授	米国、カナダの日系人史、社会・文化史、新たな史料の発掘、聞き取り調査、移民の主体的な経験や語りの収集と分析	研究分担者
合計		3 名		

3. 2020年度の研究活動報告 ※行が不足する場合は、適宜、行を追加してご記入ください。

(和文)

I. 本研究の目的と 2020 年度の研究目的の概要

本研究は、北米の移民史について、トランスナショナリズム、人権、移民や移住をとりまく人々の主体的な戦略やコミュニティの変容という重要な論点を中心に、アメリカ合衆国、カナダの移民たちの歴史を記述し、多角的な視点から分析することを目的としている。全研究期間を通じて、各メンバーは、担当する事例についての史料を発掘し、情報を共有、意見交換を行い、それぞれの事例研究を比較、統合することで、北米の移民についての重要な論点を整理し、提示することとした。

もともと本研究は、2019年度を研究最終年度とし、2020年度は、研究期間終了後の研究成果発表の年と位置付けていた。しかし、COVID-19の世界的な蔓延で、2019年度末(2020年1~3月)に予定していた打ち合わせ、学会参加や発表のための出張旅費等に残額が生じ、また、十分な研究活動が行えなかった。そのため、2020年度に一年の延長研究期間をいただき、前年度までの共同研究での蓄積をもとに、各研究事例に共通する現象について研究成果をまとめることとした。

II. 2020年度の国内、国外での共同研究活動の概要

本年度は、共同研究の最終成果として、アメリカで最大の歴史学会である Organization of American Historians の年次大会(2020年4月2日-5日、於アメリカ合衆国ワシントンDC)で発表する予定であった。(発表者は、本共同研究のメンバー3名、司会・コメンテーターは、Katherine Benton-Cohen 教授(ジョージタウン大学)の予定であった)。そのため、昨年度(2019年度)を通じて、発表の準備を中心に、司会の Benton-Cohen 教授(ジョージタウン大学)も交えて共同研究者間の意見交換、研究会等を行っていた。しかし、2020年春からの米国での COVID-19 の急拡大に伴う混乱で、研究交流は困難を極めた。本研究会は、何度も OAH と連絡を取り、直前まで学会参加の方策を探っていたが、結局、OAH より大会自体の中止が伝えられた。さらに、2020年度前期は、オンライン授業というはじめての試みで試行錯誤が続き、研究活動にあまり時間を割けなかった。

しかし、前期が終わる頃になると、各メンバーが ICT を利用した教育方法に慣れ、それらを研究活動にも応用できるようになってきた。具体的には、Zoom, Webex, Google Document 等を使った研究会や打ち合わせの開催、文書や研究成果の回覧、講演動画の作成、電子データや分析ツールの活用等である。人文研「南北アメリカの歴史、社会、文化」チーム(主査:一政)もオンライン化し、これらのオンライン研究会開催日に共同研究者の打ち合わせ等も設定した。(開催日詳細は小田が作成した HP (<https://sites.google.com/view/americas-jinbunken-chuo/home>) 参照のこと。)その他、メンバーが発表する学会や研究会のパネルにもお互いに参加し合い、研究を深めた。また、2020年に新たにアーカイブ化、電子化され、アクセスが可能となった資料や書籍も多く、各自が資料の所在について情報共有をしつつ、データの整理を進めることとなった。

さらに、本共同研究が OAH で発表する予定であったパネル、“Emergence of Immigration ‘Specialists: Ideas about Inclusion and Exclusion of Immigrants in the Early- to Mid-20th Century’”(「移民をめぐる「専門家たち」の出現—20世紀初頭から半ばまでの移民をめぐる排除と包摂論)について、なんらかの形で会員向けに公開しないかとの連絡が2020年夏頃に OAH より届いた。公開形式としては、パネルメンバー全員が揃って行う発表動画に限らず、PDFでのレジュメやペーパー、個人の発表動画等を OAH の HP で会員に公開するというものであった。このような形式のものを全員で取り組んだ研究成果の発表の場として良いのかという考えから、メンバー全員でこのインフォーマルな動画(またはPDF)を作成することはせず、希望者個人の責任で、

OAH のHP に新たに設置されることになった 2020 Virtual Conference に分担した発表部分について動画または PDF をアップロードすることとした。また、OAH での共同パネルに代わるものとして、共同研究のメンバー全員で本学人文研での共同研究会で発表パネルを企画することとし、その準備を始めた。

III. 共同研究上明らかになったことと各研究者の研究成果

共同研究の結果、移民と移民を取り巻く人々—特に、専門家と呼ばれる人々、社会改革やボランティア活動などの運動家や移民と関わる団体の関係者、政府や政策立案関係者—の関わりやネットワークに注目する重要性が明らかになった。さらに、これらの分野で人種、エスニシティ、ジェンダーの枠組みがどのように設定されたのか、また、それらがどのように歴史の中で語られ、変容してきたのかを研究することで、社会における排除と包摂の過程を議論することができた。以下、共同研究全体に寄与する形で、各自の研究がどのように進められたのかも付記する。

①一政（野村）は、20 世紀初頭に移民を対象としたセツルメント運動などの社会改革運動に注目し、移民を巡る排除と包摂についての分析を続けた。まず、クロアチア系移民コミュニティの動きについて、共著で書籍を出版した。（「子どもたちに語る移動の言説—アメリカ合衆国のクロアチア民族協会青少年部」、北村暁夫編『近代ヨーロッパと人の移動』、山川出版、2020 年 5 月。）また、OAH で発表予定であった“Representation of immigrants and their gender roles: Emily Greene Balch and her social work in the early 20th century United States”について、OAH virtual conference site へアップロードする動画を準備している。また、アメリカの女性達が、社会改革運動から国際的な婦人平和運動へと関与を深めていく過程にも注目し、移民や送出国の女性達とのネットワークという視点から平和構築や国際協調の過程でどのような排除と包摂の過程が起こるのか研究を続けている。

②小田（研究分担者）は、20 世紀前半から、戦中、戦後を経て、1964 年移民法成立に至るまでのリベラル派の団体や組織の連携の過程やその移民政策改革論について詳述しようとした。そして、連邦政府と地方自治体、人権団体や移民の権利運動に関して調査を進め、移民をめぐる排除と包摂の過程を描き出した。まず、先行研究の整理の一環として、代表的な先行研究の訳書を出版した。（メイ・ナイ著・小田悠生訳『「移民の国アメリカ」の境界—歴史のなかのシティズンシップ・人種・ナショナリズム』白水社、2021 年 1 月刊。）また、本共同研究の中核となる時代を中心に、アメリカ史についての一般書を分担執筆した。（梅崎透・坂下史子・宮田伊知郎編『よくわかるアメリカ史』ミネルヴァ書房、2021 年 5 月刊行予定。本書の「帝国の拡大」「改革の時代」「セツルメント」「革新主義時代の連邦政治」「革新主義時代の外交」「ウィルソンと第一次世界大戦」「怒涛の 1920 年代」の項を執筆。）

③ 和泉（研究分担者）は、「移民の経験や語りとコミュニティの変容」という視点から、草の根の移民個々人の生活史を中心に、移民をめぐる排除と包摂の歴史を描き出した。2020 年度は、zoom などによるオンライン会議やオンラインの講演会の利用が一般的となったので、和泉は今までの研究成果を積極的に公開するよう努めた。口頭発表として、2020 年 10 月 3 日に「日系カナダ人通史の刊行と新たな研究の課題」と題し、マイグレーション研究会で Zoom による研究会発表をした。また 10 月 15 日に上智大学アメリカカナダ研究所『著者と語るシリーズ』で、近著『日系カナダ人の移動と運動』を zoom で紹介した。10 月 23 日には、ビクトリア大学の

Jordan Stanger-Ross 教授とともに、“Midge Ayukawa Commemorative Lecture”において、近著 *The Rise and Fall of America’s Concentration Camp Law: Civil Liberties Debates from the Internment to McCarthyism, and the Radical 1960s* (Temple UP, 2019)、および Jordan Stanger-Ross, eds. *Landscapes of Injustice: A New Perspective on the Internment and Dispossession of Japanese Canadians* (McGill-Queen’s University Press, 2020)の合同書評会を行なった。これらの研究会、講演会の中には、共同研究のメンバーも参加したのものも含まれている。

そのほか、日系アメリカ人強制収容所のバーチャル巡礼イベント「*Tadaima! A Community Virtual Pilgrimage*」にビデオレクチャーを提供した。同レクチャーは 8 月 10 日に <<https://www.jampilgrimages.com/week-9>>に公開された。12 月 28 日には、本共同研究の一部として調査を続けていた和歌山からのカナダ移民について、アメリカ村 Canada Museum 公開オンライン講座「移民でつながる Vol.1」で講演した。2021 年 1 月 15 日には、グローバル地域文化学会小規模講演会で、公開シンポジウム「アメリカ大統領選挙と Black Lives Matter—勝敗を分けた社会運動に迫る」で講演した。

(英文)

The purpose of our research is to examine the concepts of nation, race, and citizenship by analyzing the changing transnational socio-political, economic, and cultural contexts of immigrants in the globalizing world, as well as by exploring their individual life history. In particular, we focused on the formation and transformation of immigrant communities in North America since the late 19th century. We looked at various regulations on emigration/immigration as well as many supporting systems for immigrants.

Throughout our research, we have been arguing how socio-political, economic, and cultural contexts and the international relations of the U.S. and the immigrants' home countries shaped the perceptions of and responses to immigration and immigrants. We found it important to examine such inclusion and exclusion processes in the societies in question.

During the 2019 academic year, we prepared for our panel presentation, "Emergence of Immigration Specialists: Ideas about Inclusion and Exclusion of Immigrants in the Early- to Mid-20th Century", which was supposed to be presented at the 2020 annual meeting of the Organization of American Historians (OAH), Washington D.C., April 2-5, 2020. (the panel speakers- Ichimasa, Oda, and Izumi; the panel chair- Prof. Katherine Benton-Cohen (Georgetown University)) However, because of the COVID-19 outbreak from January 2020, the OAH annual meeting was canceled. We had to change our research plan for the academic year 2020.

Thus, in the 2020 academic year, we tried to find other opportunities to present our research findings. We decided to organize a co-presented presentation panel at the Institute of Cultural Sciences, Chuo University, and started planning. We also learned new IT skills, which enabled us to hold and attend research meetings and share research findings and data. With the help of new technology, we had active communication with each other. As for each member's research achievement, see the list below.

4. 主な発表論文等（予定を含む）※行が不足する場合は、適宜、行を追加してご記入ください。

【学術論文】《著者名、論文題目、誌名、査読の有無（査読がある場合は必ず査読有りと明記してください）、巻号、頁、発行年月》

小田悠生「アメリカ合衆国から見た米墨国境—歴史のなかの国境線・国境地帯・国境」『歴史学研究』、995号、2020年4月、33-43頁。（査読あり）

小田悠生「2019年の歴史学会 - 回顧と展望—北アメリカ」『史学雑誌』第129巻5号、2020年5月、394-398頁。

<p><u>和泉真澄</u>「アジア系アメリカ人と BLM 運動」『現代思想』10 月臨時増刊号、2020 年 10 月、299-306 頁。</p>
<p>【学会発表】（発表者名、発表題目、学会名、開催地、開催年月）</p>
<p><u>和泉真澄</u>、「日系カナダ人通史の刊行と新たな研究の課題」、マイグレーション研究会 10 月例会、マイグレーション研究会、2020 年 10 月 3 日。</p>
<p><u>和泉真澄</u>、「『日系カナダ人の移動と運動』の紹介」、上智大学アメリカカナダ研究所『著者と語るシリーズ』講演会、上智大学アメリカカナダ研究所、2020 年 10 月 15 日。</p>
<p><u>Izumi, Masumi and Jordan Stanger-Ross</u>, “Midge Ayukawa Commemorative Lecture”, the Ayukawa Commemorative Fund lecture series, Centre for Asia-Pacific Initiatives (Department of History, the University of Victoria) and Landscapes of Injustice, October 23, 2020.</p>
<p><u>和泉真澄</u>、「移民でつながる Vol.1」、アメリカ村 Canada Museum 公開オンライン講座、アメリカ村カナダミュージアム、2020 年 12 月 28 日。</p>
<p><u>和泉真澄</u>、「アメリカ大統領選挙と Black Lives Matter—勝敗を分けた社会運動に迫る」、グローバル地域文化学会小規模講演会公開シンポジウム、グローバル地域文化学会、2021 年 1 月 15 日。</p>
<p>【図 書】（著者名、出版社名、書名、刊行年）</p>
<p><u>一政（野村）史織</u>「子どもたちに語る移動の言説—アメリカ合衆国のクロアチア民族協会青少年部」、北村暁夫編『近代ヨーロッパと人の移動』、山川出版、2020 年 5 月。（共著）</p>
<p>メイ・ナイ著・<u>小田悠生</u>訳『「移民の国アメリカ」の境界—歴史のなかのシティズンシップ・人種・ナショナリズム』、白水社、2021 年 1 月。</p>
<p><u>小田悠生</u>「帝国の拡大」「改革の時代」「セツルメント」「革新主義時代の連邦政治」「革新主義時代の外交」「ウィルソンと第一次世界大戦」「怒涛の 1920 年代」、梅崎透・坂下史子・宮田伊知郎編『よくわかるアメリカ史』ミネルヴァ書房、2021 年 5 月刊行予定。</p>
<p>【その他】（知的財産権、ニュースリリース等）</p>
<p>なし</p>